

平成 26 年度 第 1 回安曇野市地域公共交通会議兼地域公共交通協議会 会議概要

- 1 会議名 平成 26 年度 第 1 回安曇野市地域公共交通会議兼地域公共交通協議会
- 2 日 時 平成 26 年 5 月 23 日（金）午後 2 時から 3 時 30 分
- 3 場 所 県安曇野庁舎 401 会議室
- 4 出席者 宮澤宗弘会長（安曇野市長）、奥山修司委員、中牧俊明委員（坂内陽子氏代理出席）、堀田文雄委員（手塚交通政策課長補佐代理出席）、塩沢宏昭委員、山崎芳彦委員、小野照武委員、近野京子委員、宮下光義委員、美濃輪喜和子委員、矢花正一委員（平林義明氏代理出席）、高橋千治委員、齊藤正昭委員、飯田善規委員、望月熙史委員、若宮昭三委員、佐原真由美委員、宮崎崇徳委員、曲渕憲介委員、小林忠由委員、樋口眞委員、小岩井清志委員、耳塚喜門委員、岡山徳夫委員、中村博委員、宮井寛志委員、西郷靖純委員、藤松兼次委員（花村総務管理課長代理出席）、小林弘委員、飯沼利雄委員、曾根原悦二委員、飯森正敏委員（内田建設課長代理出席）、北條英明委員
事務局：等々力企画政策課長、北條同課企画担当係長、矢淵同課企画担当
担当課：健康福祉部（藤原高齢者介護課長補佐）
- 5 公開・非公開の別 公開
- 6 記 者 2 人
- 7 傍聴者 1 人
- 8 会議録作成年月日 平成 26 年 8 月 6 日

協議事項等

◎会議次第

- 1 開 会（事務局 等々力課長）
- 2 あ い さ つ（宮澤会長）
- 3 自 己 紹 介
- 4 議 事
 - (1) 専決処分の承認を求めることについて
 - (2) 平成 25 年度安曇野市地域公共交通協議会事業報告について
 - (3) 平成 25 年度安曇野市地域公共交通協議会決算について
 - (4) 平成 25 年度福祉バス運行実績報告について
 - (5) 平成 25 年度上田線運行実績報告について
 - (6) 平成 25 年度穂高周遊バス運行実績報告について
 - (7) 地域間幹線系統確保維持計画「四賀線」（案）について
 - (8) 地域内フィーダー系統確保維持計画（地域公共交通確保維持事業）（案）について
 - (9) 平成 26 年度まつもと空港－安曇野シャトル便運行計画（案）について
 - (10) その他
- 5 閉 会

◎協議方法

安曇野市地域公共交通会議設置要綱第 6 条及び安曇野市地域公共交通協議会規約第 13 条第 2 項に基づき、会長が議事進行を行う。

◎議事録署名人

宮下光義委員、望月熙史委員

◎議事

(1) 専決処分の承認を求めることについて

【事務局説明】・・・資料1

専決処分の承認を求めることについて、安曇野市地域公共交通協議会財務規程第3条第2項の規定により次のとおり専決処分したので、同条第3項の規定により報告し、協議会の承認を求める。本日提出、会長名。平成25年度安曇野市地域公共交通協議会補正予算専決第1号について、別紙のとおり専決処分する。本年3月27日付会長名。

別紙平成25年度安曇野市地域公共交通協議会補正予算専決第1号は、次に定めるところによる。収入支出予算の補正について収入支出予算の総額から収入支出それぞれ23,951千円を減額し、収入支出予算の総額を収入支出それぞれ54,649千円とする。まず収入について、市からの負担金は補正前78,599千円であったものを、23,951千円を減額し、54,648千円とし、収入合計は他収入を合わせて54,649千円とする。続いて支出について、款2事業費中の運行費について、補正前76,903千円であったものを22,985千円減額し、53,918千円とする。この主な理由は、「あづみん」等の運行を委託している市内タクシー事業者4社へ直接支払われる国庫補助金の増、及び利用料、運賃収入の増によりその分を相殺する、ということである。また、計画推進費について、これは主に停留所等の標識の新設や修繕に充てるものであるが、昨年度は車両の駐車場の整地工事のみの実施であったため322千円を減じている。

今回の補正の主な原因は国庫補助金の確定による減、それから利用者の増加に伴う運賃収入が増えたことによる減である。1については以上。なお、17,878,000円は国庫補助金の相当額になる。

【宮澤会長】

只今の説明について、ご質問ご意見等があれば氏名をおっしゃっていただき、発言をお願いしたい。よろしいか。では専決処分について、承認を頂ける皆さんの拍手をお願いしたい。
<拍手>

専決処分は承認をいただいた。続いて(2)平成25年度安曇野市地域公共交通協議会の事業報告について、事務局から説明を。

(2) 平成25年度安曇野市地域公共交通協議会事業報告について

【事務局説明】・・・資料2・3

資料2をご覧ください。併せて、資料3もお手元にご用意を。平成25年度の安曇野市地域公共交通協議会事業報告について、後ほどそれぞれの資料に基づき詳細説明を申し上げるが、報告として簡単に説明させていただく。

1『デマンド交通「あづみん」、定時定路線、ナイトラインの運行』について、これらは当協議会が主体となって運行している。「あづみん」、及び定時定路線の運行状況は、右肩に資料3と書かれた資料をご覧ください。「あづみん」の利用者数について平成24年度の運行状況が91,597人に対し25年度は91,272人とほぼ昨年度並みであった。定時定路線につい

ては、平成 24 年度 13,569 人に対し 25 年度 15,191 人とおよそ 12%の増加であった。ナイトラインの運行については、堀金地域にお住まいの高校生等の帰宅支援を目的に豊科駅から運行していたが、利用低迷を受け堀金地域の高校生にアンケートを実施した結果、77%もの割合で廃止しても困らない、とのことだった。これを受け堀金地域審議会等に説明を行い、昨年 5 月 31 日をもって終了させていただいた経過である。なお、この間の運行日数 37 日間で、利用者数は 31 人という状況であった。

2の『デマンド交通「あづみん」(定時定路線を含む)の検証』について。「あづみん」については我々事務局の者が「あづみん」に乗り込み、利用されている方に直接アンケートを実施し、137 人の方に対して実施し 96.3%に相当する皆様から良かった、あるいは概ね良かった、と回答を頂戴した。定時定路線についても、直接利用者にアンケートをお願いし、29 人の方から回答をいただき、96.6%の方から良かった、あるいは概ね良かったとの回答を頂戴した。

3の『デマンド交通「あづみん」利用者累計 50 万人達成セレモニーの実施』について。平成 19 年 9 月 10 日より運行を開始し、平成 25 年 6 月 25 日に 50 万人に達成したことに対し、平成 25 年 5 月 27 日に市長室において、50 万人目の利用者に対し表彰状と記念品を進呈させていただいた。

4の『観光客対応や市外移動に関する情報提供』として、上田線の運行について、平成 26 年度からの運賃改定、ダイヤ改定についてこの協議会でご審議いただいた。また、市のホームページにリンクを貼り、周知を図った。

5の『観光や公共交通サービス等に関する情報提供』として、福祉バスの運行状況、周遊バスの運行状況(新規運行ルートや料金)について検討を行った。また、まつもと空港-安曇野シャトル便の運行状況について協議いただいた。

6の『その他安曇野市地域公共交通総合連携計画推進に関する事業』として、国の支援として生活交通ネットワーク計画の補助を受けているが、こういった計画の素案について当協議会にて検討いただいた。25 年度における当協議会の事業報告につきましては以上。

【宮澤会長】

事務局からの説明は以上であるが、御質問、御意見等あればお願いしたい。よろしいか。(異議なし、の声。)

利用者数等については記載がされているので、またご覧いただきたいと思う。平成 25 年度安曇野市地域公共交通協議会の事業報告につきまして、拍手をもって御承認をいただきたい。
<拍手>

(3) 平成 25 年度安曇野市地域公共交通協議会決算について

【事務局】・・・資料 4

資料 4 になる。先程、専決補正を承認いただいたが、これに基づいた決算書ということになる。収入合計 54,643,299 円、支出合計 54,643,299 円、同額で差引残高ゼロとなる。

まず収入について、1 負担金、決算額ベースでは 54,643,298 円。これは安曇野市一般会計よりいただいているもの。2 補助金等について、あづみん等運行していただいているタクシー事業者への補助金はあるが、当協議会としては補助金ないということでゼロというこ

とになる。なお、摘要に記載があるが平成 22 年度までは地域公共交通活性化・再生総合事業費補助金があり、これは協議会で補助金を受けていた、という経過があり、現在も科目のみ記載をしている。3 の諸収入、これは預金利子 1 円。全て合計すると 54,643,299 円となる。

続いて支出の部。1 の運営費について、これは会議費、当協議会の出席謝礼、委員の旅費が該当。また事務費について、これは消耗品、印刷費、通信費、通信費（郵便料）等が該当。当初予算額 1,270,000 円に対し 643,000 円を減額し、予算額 627,000 円となる。これに対する決算額が 622,424 円。

続きまして 2 の事業費について。こちらが「あづみん」等の運行に関わる経費の中身となる。当初予算額 77,328,000 円から 23,307,000 円を減額し予算額では 54,021,000 円、決算額では 54,020,874 円となる。一番大きいものは運行に関わる経費と、「あづみん」予約配車等業務を委託している安曇野市社会福祉協議会への委託費となる。こういった経費から補助金等差し引きますと決算額で 53,917,974 円となる。計画推進費は、昨年度は駐車場の整地整備のみを行ったため、予算額 425,000 円から 322,000 円を減額し、予算額では 103,000 円、決算額ですと 102,900 円。4 の予備費、5 の租税公課はゼロ。支出合計 54,643,299 円となる。雑駁ですが決算書の説明につきましては以上。

【宮澤会長】

ここで監査を受けているので、監査報告をお願いを申し上げたい。塩沢委員、よろしくお願ひしたい。

【塩沢委員】

5 月 15 日に私が松本合同庁舎の方で、また、5 月 22 日に安曇野市商工会長の齋藤会長が監査をそれぞれ行わせていただいた。大変僭越であるが私が代表させていただき監査のご報告をさせていただく。協議会の規約第 32 条の規定により、平成 25 年度事業報告書、それから決算書、金銭出納簿、財産目録、等の書類、各書面を監査いたしました結果、正確であると確認をさせていただきましたのでここにご報告申し上げます。以上です。

【宮澤会長】

只今の説明、並びに監査報告につきまして御質疑、ご意見等あれば願ひしたい。どうぞ。

【若宮委員】

先程の補正について、補正予算が 23,951 千円というのは非常に大きいですが、どういう理由か。

【宮澤会長】

事務局で説明願う。

【事務局】

主な要因は 23,307 千円減の運行費になる。国の補助金を受けているが交付決定兼確定するのが 2 月という時期になる。最終的な額は予算建ての時期にはわからないため、補助金がないものと試算し、ここに計上してある。国から確定金額が出た時点でその部分がマイナス、という形になった経過でございます。よろしく願ひいたします。

【宮澤会長】

よろしいか。直接業者へ国の方から入金されるように確定し、その分をマイナスした、ということで良いか。若宮委員、よろしいか。（はい、いいです。）他の委員さんで何か。よろしいか。平成 25 年度安曇野市地域公共交通協議会決算について、御承認をいただける方の拍

手をいただきたい。

<拍手>

承認いただいた。

(4) 平成 25 年度福祉運行実績報告について

【担当課】・・・資料 5

福祉バスは穂高、堀金、三郷の 3 地域の福祉センター行き、並びに、穂高の有明地区にある日帰り温浴施設「穂高老人保健センター」行きのバスを運行している。利用できる方は 60 歳以上の市民の方で利用料金は無料。それぞれの施設の利用者の増を主な目的として運行している。穂高地域では 4 路線を月 2 日ずつ、計 8 日間運行。堀金地区では、3 路線を月 2 日ずつ、計 6 日間運行。三郷地域では、4 路線を月 2 日、計 8 日間運行。また、老人保健センター行きについては、穂高地域では 8 路線を月 1 日計 8 日間、三郷地域では 2 路線を月に 1 日ずつ、計 2 日間ということで運行している。

運行の利用実績について。穂高地区の福祉センター行きは運行日数 96 日、平均利用者数は 1 日 3.8 人。穂高から穂高の老人保健センター行きは運行日数 96 日、平均利用者数は 1 日 27.6 人。堀金地区の福祉センター行きは運行日数 72 日、平均利用者数 1 日 2.0 人。三郷地域の福祉センター行きは運行日数 96 日、平均利用者数 6.8 人。三郷地域から穂高の老人保健センター行きは運行日数 24 日、平均利用者数は 6.1 人。全地区合わせて平成 25 年度の総利用者数は 1,160 人（老人保健センター行き除く）。以上。

【宮澤会長】

只今の説明について、御質問、御意見等は。

これは豊科と明科がこの事業は無いが、利用者が無かったということで廃止をしたという経過がある。皆さんにまたご協議をいただきたいと思うのは、60 歳以上が無料でいいのか。国でも年金支給は 65 歳から、まごまごしてれば 75 歳から、何て話が出ている。健康長寿のまちづくりでは 60 歳というまだ現役だが、これを老人と言う、60 歳から無料で本当にいいのか。地域によると 70 歳以上が老人クラブ、敬老会等に呼ばれているっていう事例もあり、今後検討すべき課題と感じる。ご意見をいただきたい。老人クラブの会長さん、いかがか。

【若宮委員】

老人保養センターがしゃくなげ荘改装によりなくなるという話を聞いたが、存続していただけか。

【宮澤会長】

これは基本的には廃止の方針。現在、宮城の皆さんに委託していただいているが、高齢化のためもう引き受けられないので市で何とかしてほしい、という話がある。私どもとしては、新しい施設が出来る際には新しい方に統合するというのが基本的な方針である。ただ、地元の方から存続の強い要望はあるが、温浴施設の方は老朽化をしており、水回りや耐震性等を考慮すると持たないのではないかと。この施設を改築するという事は現在計画にない。従って、一定の期間存続をさせ、引き続き宮城の皆さんに管理していただくか、有明地区の区長会の皆さんに管理していただくか検討した経過もある。しかし、それは無理というような報告を聞いている。今日は、ついでにその話が出たが、詳細、状況等については、担当

部長に説明をしてもらってもいいか。

【若宮委員】

新しいしゃくなげ荘は今までと比べて広間が小さくなっている。日帰り施設の計画なので休憩するその場所はあれで結構であるが、今までのようにしゃくなげ荘を使って我々老人クラブの団体に懇親会をやる場合には非常に狭いような気がする。以前、老人クラブの三役会で最終設計図を持ってきて際にいろいろ注文を申し上げたが、今度出来たのを見させてもらうと我々の要求が何にも、ほとんど入っていないような気がしているが、その辺はどうか。

【宮澤会長】

交通整理をさせていただきたい。私の発言で横道に逸れてしまったという思いだが、今日は公共交通が主体の会議であるので、このしゃくなげの湯の話については後ほどにさせていただきたいと思う。ただ、既にほぼ実施計画が出来上がり、地元の皆さんの意向もお聞きをしながら議会でも審議をしていただきながら予算組みをしてある。また予算との兼ね合いもあり、大きく増やすということは現在の状況では非常に困難と考えている。後ほどの議題で改めて、ということにさせていただきたい。他には、よろしいか。平成 25 年度の福祉バス運行実績報告について、お認めいただける方の拍手をお願いしたい。

<拍手>

(5) 平成 25 年度上田線運行実績報告について

【耳塚委員】・・・資料6

平成 25 年度の利用であるが、安曇野から上田へ行った方は延べ 1 8 7 日の 2 1 4 名。上田から安曇野へ来られた方は 1 6 8 日の 1 9 7 名。1 回の乗車は平均 1.2 人。平成 25 年度の実績は以上であるが、前回の会議において、この 6 月 1 日からダイヤの改正並びに運賃の改定をご承認いただき、値上げになるが、安曇野市、安曇野市観光協会からご協力、ご支援をいただき、現在 8 名とか 20 名といったまとまった人数で予約が入って来ている状況である。平成 26 年は期待が出来る、と思っている。毎回お願いすることであるが、安曇野市にはもう少し上田線について広告を、ホームページだけでなくチラシ等々ご協力をお願いしたい。以上。

【宮澤会長】

他のタクシー事業者も上田線の運行を担っているの、補足等があれば、お願いしたい。よろしいか。今、広報の件について要望があったが、事務局としては何か考えは。PR の充実を、とのことだが。

【事務局】

ホームページと言うことだけでなく検討させていただき、色んな方面で皆さんが見ていただくような方法で検討させていただきたい。

【宮澤会長】

只今の説明について委員の皆様方で、ご質問、ご意見等は、よろしいか。よろしければ拍手で報告について承認をいただきたい。

<拍手>

(6) 平成 25 年度穂高周遊バス運行実績報告について

【飯田委員】・・・資料7

平成25年度は、運行日数110日間、乗降数の目標として19,800名を計画していたところ、最終乗降数は19,588名という実績。目標には若干届かなかったが、これは9月、10月の台風、長雨による減が非常に大きく響いた。これがなければ、2万名を超えていたのでは。一応目標通りの運行ができた、と考えている。それから、先程の上田線に関係し今年度の計画で少し変更させていただいた。観光協会としては周遊バス、中房線、上田線、この後ご審議いただく空港シャトルを含め安曇野の二次交通に関わるパンフレットを2万枚作成する予定である。本日もご承認いただければ印刷に取りかかりたいと考えている。21年度、22年度は周遊バスを運行しても、ダイヤ表、運行経路等の宣伝がほとんどされていなかった。23年度は「おひさま」の年。24年度から観光協会で作時刻表、経路図を作成し、24年度は5万枚を作成し配布した。25年度は7万枚の配布。そういった形で何とか乗降数を確保しており、いかに露出を確保するかが非常に重要である、ということをご理解いただきたい。以上。

【宮澤会長】

以上の説明について、ご質問、ご意見等あればお願いしたい。ちなみに、7万枚のビラはどのような方面に配布されたのか。

【飯田委員】

長野県の東京、名古屋、大阪の観光情報センターを中心に置かせていただいている。それから、あと市内周遊バスの経路上の主な事業者さんに配布し、お客様へ宣伝をしていただいている。市内においては以上となる。

【宮澤会長】

この効果は表れつつある、こういう見方で良いか。

【飯田委員】

その効果と、ダイヤ、ルートの見直しが結果として数値で出た、と認識している。

【宮澤会長】

委員の方で何かあればお願いしたい。よろしいか。では、質問、ご意見ないのでこの報告についてお認めをいただければ、と思う。

<拍手>

(7) 地域間幹線系統別確保維持計画 四賀線（案）について

【小林忠由委員】・・・資料8

当社は路線バスを松本バスターミナルを拠点に営業している。安曇野市に関しては松本バスターミナルと四賀地域への路線バス、「四賀線」を営業させていただいている。大口沢バス停と、中谷バス停の2箇所が安曇野市内のバス停である。そちらの方に「あづみん」のデマンド交通とのフィーダー系という形で接点を設け、市内流入のような運行計画がある。

四賀線の運行計画についてであるが、ご存知のとおり路線バスはモータリゼーション以降、非常に利用者離れになり、当社もいろいろな路線で休止、廃止、改善を努めている。四賀線も補助金の該当路線であり、維持していくためには、国並びに県から補助金を頂戴して欠損を埋め営業している。このような状況で維持計画書がある。直近の1年間の事業計画をお示しする中で、3年間の損益見込みを出し、それで補助金を頂戴していく、ということになる。

幹線系統の運行に係る目的、必要性についてであるが、高齢化の進んでいる時代では山間地ではやはり公共交通、足の確保というのは重要な分だと考えており、引き続き改善を図りながら営業をしていきたい、というような路線になる。系統の運行の目的に関する定量的な数値目標等である。現在1運行（1往復）で該当路線31名様位のご利用がある。片道では約15名。その15名が出発場所から終点まで乗車するわけではなく、途中途中のバス停で降車されることもあるが、この15名平均を維持し、増加をさせていきたい。路線の維持に加え、車両の購入も減価償却費の補助を受け乗りやすいワンステップバスなりノンステップバス等を導入していく計画である。10月から翌年9月までの1年間であるが、その事業計画をお示ししている。廃止ありきの路線ではなく、引き続きご利用いただき、利用促進をしていただき「乗って残す、乗って生かす公共交通」と言うのを住民の方々にも実践をしていただき、末永く持続できる路線営業をさせていただきたいと思ひ、本日お諮りしたい。なお、松本市にも機会を設けさせていただき、路線維持に努めていきたい。

2ページ目、3ページ目にはその該当路線の路線図があるご参照いただきたい。以上。

【宮澤会長】

只今の説明について、ご質問ご意見等あればお願いしたい。よろしいか。それでは地域間幹線系統確保維持計画 四賀線（案）につき、皆様の拍手によってご承認をいただきたい。

<拍手>

【宮澤会長】

この件につきましては承認をいただいた。

(8) 地域内フィーダー系統確保維持計画（地域公共交通確保維持事業）（案）について

【事務局】・・・資料9

今しがたご承認いただいたアルピコ交通様の四賀線に接続することがひとつの目的ではあるが、これに接続するフィーダー系統の中心はデマンド交通「あづみん」になる。こちらに関しては、昨年の会議で向こう3ヵ年ということで運行計画を認めていただいた。今年は27、28、29の3ヶ年の（案）を上げさせていただいた。内容としてはデマンド交通「あづみん」等を計画に盛り込むことにより維持し運行していくということを謳っているもの。この公共交通は財源的には国からの補助金をいただかないと維持が困難であり、この計画を立てることにより補助事業を受けることができることになる。概算であるが運行日は平成27年度で242日、翌28年度は244日、29年度は245日ということを目途にしている。祝祭日の日程等も変わる可能性もある。先程小林委員からあったアルピコ交通の四賀線への接続が大前提であるが、こちらは来月、県の部会での承認が必要ということになる。安曇野市としてはフィーダー系統を向こう3ヵ年は守っていく、ということを目途にさせていただくもの。以上。

【宮澤会長】

只今の説明について、ご意見、ご質問等ありましたらお願いします。どうぞ。

【岡山委員】

今のフィーダーの件で、補助金の負担額で、資料8の1ページ目に市町村、事業者負担額ゼロとなっている。次の資料を見ると、数字が上がって来ている。これは市町村が負担する数字なのか。今後のことであるが。

【宮澤会長】

もうちょっと詳しく。

【岡山委員】

今の事務局のご説明の中では、都道府県の負担がゼロになっている。それに対し、市町村負担の数字が入っている。前の資料では市町村の負担はゼロで、県が負担するようになっている。今までは、県と国が折半で負担していた。それが、今度は市町村がその大半を負担するという様に見えるが、何故そうなるか、という疑問を持つ。それと併せて、大口沢の人口がどれくらいあり、利用者がどれくらい望めるかということ、そのバス停を誰がどの位利用してくれたかと言う部分の資料が全くない。いかがなものか、と思っている。利用者がゼロでも負担する、という意味にも取れる。資料が無いので。その点をご説明いただきたい。

【宮澤会長】

事務局で説明を。

【事務局】

岡山委員の指摘は、おそらく2ページの事業に要する費用の総額、負担者及びその負担額、というものだと思うが、これは、あくまでも補助事業の対象となるもので、その中で計算するとの程度、という数字である。その中で都道府県の負担割合はゼロであるのに対し市町村の割合が入っている。もちろんこの補助総事業と言うのは補助対象になるもの、ならないものがあり、国庫から出していただける、と見込まれる算出額がこの額で、残った額は基本的には市町村、というか協議会の負担と言うことになる。都道府県の負担がどちらに出ているのか手元の資料には無いが。

どの位利用しているかについて、正直言ってほぼ皆無に近い、ということは前回確認した。この四賀線を利用し松本の街中に直接行くことや信大病院の前に行くこともできるが、そのことを知らない方もいるので、利用方法をPRしながら、今例えば利用者が1日当たり0.01人であったとしても、例え0.1人でも上げていく、ということを目指していき、利用者ゼロであれば接続しないでもいいのか、ということではなく、接続できることにより補助も受けられることもある。勿論このままゼロだからいいというわけではないが、こういった場で検討していただくこと、お知らせすることによって皆さんに周知していき、少しずつでも、僅かずつでも利用者が上がっていけば、と考えているところ。

【宮澤会長】

県の方から、もう少し分かりやすく説明していただきたい。

【県交通政策課 手塚補佐】

先程のフィーダー路線の方を県が負担しない、という話であるが、これはバス路線の性格によるもの。資料8の地域間幹線系統別路線、こちらの方は複数の市町村を運行する、広域的なバスの運行を図る路線である。それから、資料9のいわゆるフィーダー路線、これは原則的には一つの市町村内で運行される路線である。この辺りは、県と市町村の負担割合というか、どこを負担するかということになるが、複数の市町村をまたぐような地域間幹線系統別路線については県の方で、1市町村内でのフィーダー路線については市町村の方で負担する、といった形で広域自治体である長野県と基礎自治体である市町村とで費用の区分割合をしている、ということになる。

【宮澤会長】

よろしいか。どうぞ。

【奥山幹事長】

岡山委員からの質問は、ある意味常識的な質問かと思うが、一方で補助金概要を決めている側からすると、一つのしっかりとしたコンセプト、理念に基づき今の補助金制度は決まっている。どういう意味かと言うと、地域交通と言うのは鉄道、バスはしっかりと守るというスタンスで補助金のスキームは作られている。このデマンドを守ると言う形で作られていないので、まず補助金の衣と言うものがそういうものでしっかりと固められているということ。まず、今鉄道を除くと赤字で広域を走っている幹線路線をまずはしっかりと支えるということで、これに対して国と県がしっかりと補助金を出すと言う形で、まず資料8の幹線というものに国と県が補助金を出す。この幹線が生きていけばあとは地域内で、自宅に行こうが駅に行こうが、地域内でしっかりと線が入れば補助金を入れることになる。地域内の線がフィーダーと言う（餌をくちばしを使い与えるというような、電線で例えると家まで電線を引くようなもの）。これは岡山委員のように利用していない、と言われても、利用している路線に対し補助金が交付されるのであればそういう形で書類を作って出せばいいが、今はそういう形では補助金はもらえない。幹線があり地域内のフィーダーとして線が引けて初めて地域内に補助金が入る形になっているので、幹線の停留所と繋ぐという形で、「あづみん」の補助金をこれからもいただく、という書類作りとしてこういう概要になっている。岡山委員が言うようにここに何人送るの、ということとはさて置き、補助概要であるしっかりとした幹線があり、そこから地域内でフィーダーが引けていけば補助概要にあたる、ということで、地域内においては国と市町村が負担をする、という形になっている。この補助金についてはもっと使い勝手のいい補助金にしてもらいたい、と思っているが、一旦制度が出来ると3年から5年この制度が続くということはいった仕方がない、と思うので、今申請できる補助金の上げ方というのがこういうのになっている、ということで是非ご理解いただければ、と思う。以上。

【宮澤会長】

よろしいか。それでは他に、何かあるか。それでは質疑を打ち切らせていただく。この地域内フィーダー系統確保維持計画について承認をいただける皆様の拍手をお願いしたい。

<拍手>

【宮澤会長】

ご承認いただいた。

(9) 信州まつもと空港－安曇野シャトル便運行計画（案）について

【飯田委員】・・・資料10

昨年に引き続き、今年度から4条路線として申請させていただく。まつもと空港の利用促進、並びに九州、北海道、札幌、それから大阪、関西地域からの観光客誘致を目的とし、穂高駅前と信州まつもと空港とを連絡するシャトル便を運航したい。

運行期間は、本年7月から11月の第1週までの週末の金土日、それから月曜日の週4日の運行を予定している。7月から8月の夏休み期間中は毎日の運行も検討している。経路は、穂高駅前から信州まつもと空港までの直行便。

運行時刻はあくまでもF D Aの札幌便並びに福岡便、それからJ A Lの8月1ヵ月間運行予定の大阪便との接続を前提としているので、途中でダイヤの改正がある場合はそれに合わせたダイヤの変更をさせていただく予定。運賃はお一人（大人、こども共に）700円、幼児は席を使わないことを前提に無賃。以上。

【宮澤会長】

只今の説明について、ご意見、ご質問等は。私の方からお聞きするが、去年は中々成績が上がらず利用者が非常に少なかったと聞いている。折角の直行便であるので、費用対効果が上がる対策をしっかりと講じていただければありがたい。その辺の取組等についていかがか。

【飯田委員】

お話のとおり折角運行するのであり、利用者増をいかに図るかということが最重要課題と考える。先程の説明のとおり安曇野の二次交通のチラシの中に、目立つ所に「まつもと空港便」ということで宣伝している。運行ダイヤ、運行日等を入れたチラシを2万枚作成する予定である。それから、去年はホームページのみの宣伝であったので、非常に露出が弱く、中々周知徹底ができなかったもので、今後、パンフレット、夏のパンフレット等にも掲載するなど、できるだけ露出を高め、利用者増に努めて参りたい。

【宮澤会長】

成績が上がるようにしていただき、費用対効果をしっかりと検証していただきたい。はい、どうぞ。

【曾根原委員】

観光課の職員が業者の方から聞いた話と言うことで、お話をさせていただく。札幌からこちらへまつもと空港を利用して飛んできた、と。それから、この空港便を予約され、まつもと空港から降り、この空港便を使って穂高の駅へ行き、それから穂高の駅から中房線のバスを使って、それで中房温泉か有明荘どちらかにお泊りになった、と思う。それから翌日にはそこから燕山荘へ登られたと。北海道から来て翌日には3,000メートル級のアルプスに登れた、と。こんな素晴らしい制度があるものかと、ということでもかなり称賛をされた話を聞いた。そういったことを考えると、この空港便を使う場合において、アンケート調査を取りながら、また観光協会は第3種の旅行業が指定を受けているので旅行商品を作ることができる。そういったことを考えると、この空港便、山小屋、市内の宿泊、こういったものを一つのパッケージにして値ごろな料金設定の商品にできると、またこの空港便を使う誘客の一つの大きなツールになるのでは、ということも考えている。観光協会とも相談しながら新たな山と絡めた旅行商品といったことも十分想定できるのでは、ということで、また協議させていただきたい。以上。

【宮澤会長】

他には。どうぞ。

【小野委員】

この中で料金について、デメリットはないと思うが、メリットで一番魅力なのは料金が安いのではないかと、という気がする。その料金の比較で、通常ならいくらであるが、これを使うことによって700円だとわかればそれが一番魅力的な話じゃないかと。それをお聞かせ願いたい。

【宮澤会長】

お願いしたい。

【飯田委員】

まつもと空港から松本駅前までのシャトル便が 600 円。松本駅から穂高駅までが 300 円位したかと思うので、その合計金額から言えば遥かに割安感があるのではないかと考え、昨年、700 円という価格にさせていただいた。今年もその金額を維持したいと考えている。

【小野委員】

今の金額が 500 円とか 300 円とか出たが、トータル 500 円かトータル 800 円か。

【飯田委員】

トータル 900 円を超えているかと思うが。

【小野委員】

了解した。

【宮澤会長】

他には。なければ質疑を打ち切らせていただく。只今の信州まつもと空港－安曇野シャトル便運行計画について、賛成をいただける皆様方の拍手をお願いしたい。

<拍手>

ご承認をいただいた。次に、その他の項で事務局から何かあればお願いしたい。

【事務局】・・・参考資料の説明

【宮澤会長】・・・終了のあいさつ